

第2 教育研究団体の意見・評価

○ 日本国語教育学会

(代表者 桑原 隆 会員数 約 2,600 人)

T E L 03-6801-5951

1 前文

全体としてはよく工夫された良問で構成されているが、昨年より難化した。50 ページ超もの問題量は減らされていない。また、第3問の出題がまだ新課程2年目で不安定と言える。

2 試験問題の程度・設問数・配点・形式等への評価

第1問 美や芸術の持つ理解不可能な「わかりえなさ」について言語的に理解しようとする内容に好感が持てる。分量も適切。昨年度に比べ、導入部と結論部でひとまとまりになっており、前後半で内容が適切に展開していくという構成もよかった。

問1 訓読みから答える問題が少ない。語彙を問う問題があってもよい。

問2 妥当だが解答根拠の範囲がやや広い。

問3 妥当。評論文への慣れで差が出たか。

問4 書き手の立場や意図を問う問題は内容の把握が一通り終わった後に聞くべき内容ではないか。また、③「他者と共有できない『美しさ』の存在を」がどこに係るかが不明瞭。

問5 指示語の理解とともに理由を問う問題として文章理解を促すよい出題箇所だった。問2と関連する問題であった。④は誤答として分かりやすすぎる。

問6 最後の問題として本文全体の筆者の主張を問う問題として妥当。分量上、複数テキストもなくてよい。一方、選択肢の構造をすべて統一する必要があるかが疑問。

第2問 本文中に登場しない「母の死顔」について、問6で解消する問題構成となっているのが非常に良い。読ませる箇所を抜粋し、分量を闇雲に増やさなかった点も評価できる。

問1 語彙の問題がないのは気になる。また、傍線部で「寂しさと怒りに似た気持とが同時にこみあげてきた」とあるが、正答の②「切なく思うとともに」という表現で良いかは疑問。

問2 正解は導ける。全体として父が「求めており」と記述しているが、語り手の勝呂の視点を踏まえるとこのように言い切れるかは疑問。また、「そのように見えたのはなぜか」という問い方の「見えた」の主語が不明瞭で、問い方と選択肢が合っていないと思われる。

問3 妥当。

問4 時間軸を往還させながら全体を踏まえて問う問題で良い。第1問の問6全体の内容を問う問題の正答も①であるため、誤答を散らしてもよいのではないか。

問5 妥当。

問6 複数テキストが有効に機能しており、最後の問題として妥当。(i)で【ノート】の「抜粋」を根拠した発言として限定しており、(ii)で解釈を広げるという形で段階的に考えさせる良問。「抜粋」から本文に戻る形式も、文学を読むという観点で妥当。

第3問 昨年度の問題傾向とは大きく異なったため、受験者の日頃の学習の成果が反映できたかが気になる。出題傾向がまだ不安定という印象を受ける。

問1 妥当。

問2 妥当だが、他の選択肢に比べ分かりやすすぎる。

問3 (i)時間がかかる割に本質的ではない。(ii)正答③「さまざまな本」が他の選択肢の「用意」する本を包含しており、正答として違和感がある。また、【資料Ⅲ】「科学的な内容の本」(解説文)の位置づけが不透明。【資料Ⅲ】と【資料Ⅱ】の絵本を比較することで、絵本の特徴が浮かび上がるかは大きな抵抗感がある。共通テストで探究学習のような活動を想定するならば、完結した学習活動を示してほしい。

第4問 本文は、受験者にとって取り組みやすい内容であり、難易度も適切である。一方で、設問は全体を通じて、各種予備校などが出版する練習問題のような印象が拭えない。

問1 妥当。

問2 妥当だが、問題文に「語句と内容」とあるにもかかわらず内容面が反映されていないため、内容からも考えさせる選択肢も含めることが望ましい。

問3 妥当。

問4 妥当。受験者は本文の内容をしっかりと踏まえる必要がある。

問5 選択肢に紛れがなく作問に工夫が見られるが、誤答の選択肢に本文に全く記述が見られないものを入れ込んでいるものがあり、もう少し本文に引っかけるようにするとよい。

第5問 2年連続の日本漢文。注も丁寧に付されており、本文の状況把握がしやすく、受験者が解答に集中して取り組めるような文章であった。時間配分に配慮した設問もみられる。

問1 妥当。受験者は解答根拠が語彙のみに依らず、文脈を捉える必要もある。

問2 妥当。教室での学習成果が反映される問題であり、筆者の考えを捉えるのにも役立つ。

問3 ②と⑤が紛らわしく、文脈上どちらも取れる。⑤が絶対に不正解といえるのか、疑問である。

問4と連動して解答することが想定されているか。

問4 やさしすぎるが、教室での学びを点検できる点で妥当。共通テストの理念に適っている。

問5 実質2択の問題になっており、選択肢の作り方が単純なのではないか。

問6 良問である。工夫して作られた選択肢であることがうかがえる。

問7 複数テキストの体裁をとっているが、【資料】と本文の関係が薄い。「韻致」に注がついているため、容易に正答が出てしまう。誤答である④に工夫が必要である。

3 総評・まとめ

昨年度に比べ平均点が下がったが、問題の難易度を考えると妥当な出題。昨年度から継続して選択肢がおおむね4択になっている点も受験者への配慮が見られ、全体としてよく考えられた出題と評価できる。ただし第1問などはセンター試験時代と同様の形式だった。

4 今後の共通テストへの要望

大問5問構成で複数テキストを入れるために、時間配分への配慮が見られるが、配点に見合う設問であるか否かは再考の余地あり。第3問の持続的な出題のためにさらなる工夫を。